

横浜国際総合競技場ボランティアだより

INTERNATIONAL
STADIUM
YOKOHAMA

ボランチわ

2003年
7月26日発行
夏号(季刊)
Vol.13

ボランチ【ポルトガル語で舵とり】わ【輪、和】を意味します

競技場来場者にあの感動をもう一度！
ワールドカップスタジアムツアー

快調に展開中！！



司会を担当した江尻さん

「2002 FIFAワールドカップTM あの感動をもう一度！」がテーマで4月24日からリニューアルオープンしたワールドカップスタジアムツアーも、はや2ヶ月を過ぎようとしています。

2002年4月に、ワールドカップ記念展示検討委員会を立ち上げ、横浜市緑政局が整備を行い、いろいろな事柄を調整してオープンを迎えました。選手の肖像権やワールドカップのロゴの使用などは、FIFAの広報へ確認をしながら進めていたようです。

リニューアルオープンの式典では、東ゲート前にある『モニュ

メント2002』（ブラジルキャプテン カファー選手の足型・ドイツキャプテン カーン選手の手形がある2002 FIFAワールドカップTM のリザルトが埋め込まれているモニュメント）の除幕式が行われました。

式典の司会や来賓の方への通訳、来賓の方へのツアーなどをボランティアが担当し、手作り感覚のある式典となりました。ちなみに来賓の方は、チョンチョンゴム駐横浜大韓民国総領事・那須翔 JAWOC日本組織委員会会長・川淵三郎日本サッカー協会キャプテン・西田善夫前競技場場長・中田宏横浜市長など、多くの方に参加していただきました。



現在の「ワールドカップスタジアムツアー」の様子ですが、平日のツアー参加人数は、平均50名前後。しかし、土日となると1回のツアーに100

名以上集まることがあります。この場合は、1回のツアーを30～50名前後のグループに分け、時間差でスタートします。（7月14日現在ツアー回数44回の参加者、約5,430名）

今後も多くの方がワールドカップスタジアムツアーに参加してもらい、FIFAアンセム（入場のテーマ曲）を聞きながら、あの感動をもう一度実感してもらいたいですね。

(ツアーデスク 武ノ内)

8月～10月のスタジアムツアー開催日 (10:30・12:00・13:30・15:00 スタート)

8月 / 1(金)・3(日)・7(木)・8(金)・9(土)・10(日)・11(月)・13(水)・14(木)・15(金)・17(日)・18(月)

9月 / 3(水)・4(木)・5(金)・7(日)・8(月)・10(水)・11(木)・12(金)・13(土)・14(日)・15(月)・18(水)・

19(木)・24(水)・25(木)・26(金)

10月 / 3(金)・5(日)・6(月)・8(水)・9(木)・10(金)・20(月)・27(月)・30(木)・31(金)

~ワールドカップ紙上スタジアムツアーへの誘い~

ツアー参加にはマイユニフォーム着用がキーポイント!

スタジアム ギャラリー

ワールドカップスタジアムツアーの受付とオリエンテーションは、こちらで。FIFAワールドカップTMの第1回大会からの歴史や、サッカー発祥の地、横浜の紹介などが貴重な展示物とともにご覧になれます。

モニュメント2002



ブラジルのキャプテン、カファー選手の足型とドイツのキャプテン、カーン選手の手型が入ったモニュメントがあります。また、2000年3月から世界各地で行われた予選から決勝までの全試合結果が刻まれたレリーフが床一面に広がっています。

ゲームズ オブ 横浜2002

横浜国際総合競技場で開催された全4試合を、それぞれの試合結果とともに臨場感あふれる大型写真パネルで紹介しています。

ボランティア ウォール

世界中の観客を迎えるために活動した、ボランティアの様子を紹介しています。

ブラジルロッカールーム(2002.6.30)

決勝戦当日のブラジル代表のロッカーを再現。各選手がロッカーに残したサインやレプリカユニフォーム、優勝を予言する数字が書かれたホワイトボードなどを公開しています。



モニュメントの横に書かれているメッセージ

すべてのプレイヤーの闘志と友情を

たたえ、このモニュメントを、2002 FIFAワールドカップTMを闘ったすべてのプレイヤーとスタッフ、そして彼らに惜しみない声援をおくったすべてのファンに捧げます。」

2002年6月30日に横浜国際総合競技場のピッチに立つことを夢みて、32カ国による熾烈な闘いが繰り広げられた第17回FIFAワールドカップ決勝当日、69,029人の大観衆が見守る中、そのピッチに姿をあらわしたのは、ブラジルとドイツの選手たちだった。前半はドイツ優勢で進んだものの、本大会の得点王に輝いたロナウド選手の2ゴールでブラジルが世界193チームの頂点に立ち、5度目の優勝。黄金のトロフィーがブラジル主将カファー選手に手渡され、銀色の紙吹雪と270万羽の折鶴がピッチに降りそそいだ。ゴールポストに寄りかかり、動けないままブラジル選手たちを見つめるドイツ主将ゴールキーパー、カーン選手。そこへカファー選手が歩み寄り、握手と抱擁を求め、言葉をかけた。この光景は、会場に詰めかけた観衆だけでなく世界中のサッカーファンに感動を与え、スポーツの素晴らしさを象徴する光景として、人々の胸に深く刻みこまれた。

”あの、スミマセン。ユニフォームを着て写真撮るのは禁止しています。” ”いえ、これマイユニフォームなんです!” すっすっごい!! 皆さんかなり興奮状態。ブラジル選手のサインを自分なりの記録に収めるのに必至なので、ほとぼりが少し冷めてから説明をする。W杯Fina前日の公式練習の時に、23人中22人の選手がサインをしてくれた。サイン終了後、ロッカールームには用意した25本のペンは、跡形も無くなっていったんだった。個別のブースには、選手の日付入りサインの他に顔写真と選手データ+レプリカのユニフォームが掛けられている。その他に、試合前に気持ちを高める為に使われた計算式(1チームのW杯優勝の年を足すと何故か”3964”になる。1962年に優勝しているブラジルは、今年の数2002を足すと”3964”になるから今回の優勝も頂きだ!)の書かれたホワイトボードや、決勝戦の1日の流れを詳しく明記したボード、FIFAから提供されたビデオが流れています。(池田尚美)

ウォーミングアップルーム

選手たちが試合前にコンディションを整えます。実物大のゴール枠も再現。

Road to YOKOHAMA

大会誘致活動から、決勝戦まで、横浜の盛り上がり写真を写真やポスター・フラッグ・グッズなどで紹介。選手たちのサイン入りユニフォームやボールなども展示しています。

企画展示コーナー

サッカーを始めとしたスポーツに関する企画展示をさまざまな角度からスポーツの素晴らしさを紹介しています。

~ 1962 + 2002 = 3964 = Victory ~

きっと感動が100倍以上味わえます

ビクトリーロード



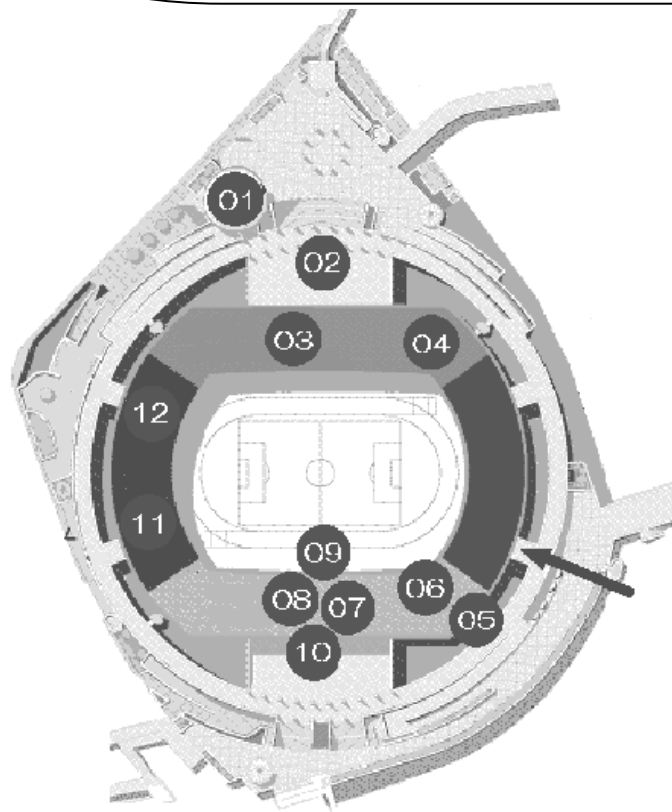
2002 FIFAワールドカップTMで使われた入場音楽につつまれ、フィールドへ。まるで、試合に臨む選手になったかのような気分が臨場感たっぷりに味わえます。

入場曲が流れると自然と鳥肌が立ちました。粋な演出ですねー。フィールドへ上がる時の目線ってこんななんだ~と体感。すごくワクワクする瞬間が味わえました。(ツアー参加した運営ボラA)

VPシート

日本をはじめ世界の有名人たちが座ったVIP席を紹介。実際に座って見ましょう。

東ゲートからスタートし、大人気のブラジルロッカールームや展示回廊を満喫し、そろそろ足腰が疲れてきた頃、ちょうど良〜VIP席のところにとどります。うまくできてます。ここでの売りはなんといっても、暫段絶対に座れない席です。」ということでしょうか。W杯決勝戦の時のVIP席順が掲示されており、今まで人気のあったのは、ペレやベッケンバウアーが座った席でしょうか。ご年配の方々はやはり天皇皇后両陛下がお座りになった席も気になるようです。実際のところ、ここからのピッチの眺めは格別で、本当に心地よく観戦ができそうな席です。自分はもちろんここで観戦を体験したことが無いのですが、見学ガイドをする上ではやはり一度は体験して皆様にその気分をリアルにお伝えするのが義務ではないかと思われそうですがいかがでしょうか。木村副場長様。そのときはとびっきりのドレスアップをして出かけたと思います。個人的に企んでいるのは、このVIP席の両サイドエリアに座っていた芸能人バージョンの席順掲示板も作ってみたいら、結構受けるのではないかと。寝てもさめても見学ツアーコースのことであれこれ頭をめぐらしている私ってひょっとすると見学ツアー企画お宅かも知れませんね。本当に職業を間違えてしまったと思う今日この頃です。(Cristiana)

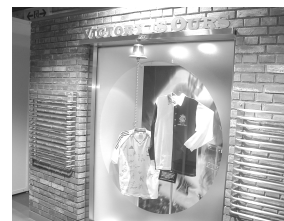


オールゴールズ&ゲームズ

横浜国際総合競技場をホームとして行われた横浜F・マリノスと日本代表の試合を紹介。横浜マリノス、横浜フリューゲルス時代から現代までの横浜F・マリノスの歴史や、これまで記録された全ゴールのプレートの展示もあります。

Victory is Ours

サポーターたちが集い、勝利を願う場所。横浜赤レンガ倉庫のレンガで囲まれた中に、日本でサッカーを初めて広めたスポーツクラブの1904年当時のレプリカユニフォームや横浜F・マリノス、日本代表のユニフォームを展示しています。



紙上ツアーはこれにて終了。

次は実際にツアーを体験してみましよう!

ツアーボランティアのみなさんのご活躍を期待しています。

(U 宮川)

5月のイタリアサッカー三昧の旅 ~ Part. 1 ~

Buon giorno サンシーロスタジアム

玉村マキ (T・U)

念願かない、イタリアはミラノのサンシーロスタジアム見学ツアーに参加してきました。横浜国際総合競技場の皆様にもその内伝えたくて、成田空港でレンタルビデオカメラを受け取り、初めてのビデオ撮影にもトライしてきました。いつの日かお披露目したいと思います。

欧州サッカーリーグの最強チームを決定するチャンピオンズリーグの準決勝が行われた翌日のサンシーロスタジアムに足を踏み入れることが出来、通路や座席下に散乱しているゴミがまだ掃除されておらず、余韻を感じながらの見学となりました。

スタジアムの案内役はイケメンではなく美しいお姉さまでした。見学するのは平日であったせいか私達2名だけで、客席に入れてもらってからは自由に見て下さいと言われ、報道記者席やVIP席を勝手に歩き回りました。その後、ロッカールームへ入らせてもらいました。前日にインテルとミランが利用してまだ12時間くらいしか経っていない部屋にはオーデオロンの香りがまだしっかりたちこめており、選手がここに居たんだという実感が湧いてきました。インテルの部屋とミランの部屋は隣同士であり、それぞれに漂う香りは若干違っていました。その向こうには共同で使うウォーミングアップルームがひとつあります。ウォーミングアップルームの床面はもちろん天然芝ですが、壁面も床から1メートルくらいまで天然芝が貼り付けてあります。

ウォーミングアップルームを出た廊下にはスポンサーの掲載されたボードが立てられ、インタビューコーナーとなっています。これもインテル用とミラン用でスポンサーが違うため、別々に2つ並べてありました。ここで私達はインタビューごっこをして楽しませてもらいました。

1926年に建設されて以来、数回にわたる増改築が行われ、今では8万5千人が収容できる規模となり、新しさや近代的設備で目を見張るというものではないのですが、その歴史ゆえになんともいえない威厳を感じることができるスタジアムです。

この見学コースは10時~17時まで試合の無い日に随時行われており、入場料は大人12.50ユーロ、子供10.00ユーロです。この入場料にはスタジアム1階に併設されているミュージアムの入場料も含まれています。このミュージアムがとても広くて立派で、歴代の選手のユニフォームやトロフィーなど全てをじっくり見るには優に1時間はかかるほどの数のお宝がきれいなガラスケースに納められています。中田選手のユニフォームや2002年のフィーバノバなどもきれいに飾ってあります。

見学ボラとして説明のやり方などを比較すれば、サンシーロの説明はあまりにあっさりしており、単なる引率だけの様なイメージでした。私達は横浜の競技場で本当に懇切丁寧なガイドをしているんだということをおぼろげに実感しました。帰る前にはリニューアルしたばかりのびかびかのショップに立ち寄り、インテルブランドのオーデオロンもお土産に買ってきてしまいました。

次回はフィレンツェにあるイタリア代表チームの合宿所とサッカーミュージアム見学の報告をしたいと思います。お楽しみに。(参考: 1ユーロ 133円/5月)



サッカー部だより

遅ればせながらチーム名発表!

その名は『FC Vじゃん』

突然ですが、サッカー部のチーム名を正式発表していなかったことに最近気づきました。(って遅いっ!) どんな意味かと申しますとボランティアの“V”に、横浜らしく“じゃん”。単純に「ボランティアじゃん!」ってことでして…。そんなチームも活動を始めてから、かれこれ2年近くなります。メンバーも増え、楽しく活動していますが、まだまだたくさんの人とボールを蹴りながら交流したいと思います。ぜひ、遊びにいらしてください。待ってまーす!

練習日: 8月9日(土) 16:00~18:00 みなとみらい市民サッカーパーク(ハーフコート)

連絡先: 宮川弘恵(U) miyahiroy@f4.dion.ne.jp

ワールドカップ後のスタジアムに私は、何ができるのか？**～ 私は始めます。名付けて『プロジェクトW』！～**

橋口 正 (U・T)

ワールドカップ後のスタジアムでは、競技場ボランティアとしての活動が再開され、いつもの活動でいつもの通り！活動エリアも少し拡大された中で、我々はこのスタジアムに何をしてあげられるのか！今までは活動の為にあれが必要とか何々が欲しいと、要求をしてきました。でもこれからボランティア自身が、企画し準備もし、必要なものも出来る限り自分たちで準備しようではありませんか！名付けて『プロジェクトW』。現在、活動で行われている、座席清掃もそのひとつかも知れません。一人が、一枚雑巾を準備しましょう！ごみ袋だって一人が一枚準備してみましょう！何も、赤字の足しにならないでしようが、個人の意思で参加したのですから、そう思ったらまず、私は始めます。

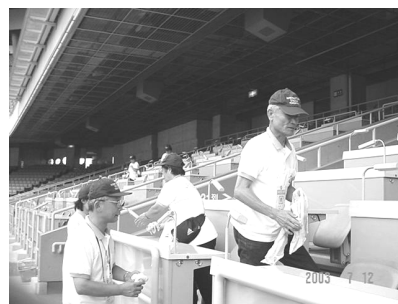
スタジアムがいろいろと言われるのは悲しい。サッカー専用じゃあない？でもサッカーだけでなく、もしかしたら、日本人(アジア)初の100m9秒台が見られるかもしれない！チビリンピックだってやっている！フリマだってチビこ駅伝だって！みんなが、今まで以上に参加できるスタジアムに！こんなスタジアム自慢ですよ！なんたって、『サッカーワールドカップ決勝のスタジアム』ですよ！だから、私はもっと愛してみようと思います！ボランティアの皆さん！訪れる人にも、近所の人にも、世界のひとにも、一人一人が始める《プロジェクトW》

嵐しさの中の喜び・・・VIP席清掃開始

鶴見川河川を砂煙を巻き上げて走るダンプカー。日に有に百台は越す。埃は風に舞い上がり黄砂の様に競技場一帯を曇らせている。ここに横浜国際総合競技場

の建設が始まって以来の変わらぬ光景である。そして平成22年完成に向けた新横浜公園は着々と進められ、昨年のW杯時の風景は今は無く広々とした整地に変貌している。土質は関東ローム層。このミクロの砂塵はやがて場所を選ばず降り注ぐ。競技場のスタンドにも。

今年度私達の活動範囲はチケットチェックの導入と新たに記者席・VIP席の清掃作業が加わり、私達の希望は少しずつ受け入れられて来ました。今やJ活動時開門前の清掃作業は、スタンドを紫に染めているボランティアの姿が競技場の風物になりました。とは言え、物にへばり付いたミクロの粒子は水で浮き上がらせて、乾いた布で拭き取らない限りザラツキは取れない厄介な作業です。配置前の短い時間、慌ただしさの中でお客様に喜んで貰えればとの一念で一丸となって汗を流している作業は横国ボラの誇りと言っても良いでしょう。これが「いらっしやいませ・有難うございました」の感謝の言葉につながり、強いてはW杯の決勝戦会場を風化させない思いが皆さん一人ひとりの手先から表しています。時同じく見学の方も新しい活動に心を燃やしています。共に喜びを抱いて横浜国際総合競技場ボランティアの歴史を築いて行きましょう。

**会議報告****第1回 横浜スポレク横国ボラ実行委員会(仮称) ボランティアルーム**

日時 6月7日(日)10時~12時 出席 宮田担当 (自主委員)15名

主旨 10月13日(月・体育の日)開催する「横浜スポーツレクレーションフェスティバル2003」新横浜公園会場へ競技場ボランティアは参加をする。事前に参加種目の要望が出されてあり、実施にあたっての検討を行う。

- 議題 1. ボランティア提案内容(12種目)の絞込み。陸上競技・サッカー教室・ウォークラリー・軽スポーツ&遊びのコーナー・5種目を選定。近日ボラ案を他部門と種目調整する
2. 5種目の担当グループ分け。実施内容を検討。

平成15年度 第2回運営ボランティアリーダー役員会議 ボランティアルーム

日時 6月28日(土)10時~12時 出席(事務局)宮田 (役員)7名

- 議題 1. 7月以降の活動予定(J1・J2・Jナビ・スーパー陸上・スポレク等18の活動が入る。)
2. 7月以降の活動反省点(活動要員未達・VIP席清掃に伴うJグループ活動の充実化)
3. スポレクボラ参加企画(各部門調整によりサッカー遊びとウォークラリーの2部門が実施可能)
4. サマーミーティング(7月27日・13時よりフリー討論集会を開催。交流会は新年度に変更)
5. Jグループ新活動導入(メッセージボードの販売・7月12日より4FコンコースN13附近)

報告 1. 運営ボラ新規募集(随時募集方式・定数350名の不足人数・詳細検討中)

スポレク2003

今年のスポレクは熱い！

ボランティア企画でヒートアップしよう！

来る10月12・13日 開催される横浜スポーツ・レクリエーションフェスティバル2003で行われるボランティア企画が決定しました。本誌前号で皆さんから募集した企画は12案の応募があり、提案者の皆さんで検討した結果、今回は下記の2案が推奨され目下10月に向けて着々と準備が進められています。

- 1：サッカーおもしろゲーム（東ゲート広場）
リフティング競争・PKゲーム・キックターゲット・ドリブル競争 など
- 2：ファミリーミニウオークラリー（鶴見川周辺）
ファミリー参加の5kmミニウオークラリー

横浜スポーツ・レクリエーションフェスティバル「体育の日」のイベントとして市民へのスポーツ・レクリエーションの普及を目的として毎年開催されています。今年は、競技場の特色を活かした従来の企画に加えて、子供たちやファミリーなどより多くの市民に気軽に楽しんでいただけるよう、そして障害者の方々にも安心して参加していただけるような、横国ボランティアならではのヒートアップしたプログラムが自主企画・運営されます。今後は障害者参加のゲームもできるだけ多くとり入れていきたいと思えます。これからの自主運営の定着に向けて、多数のボランティアの皆さんのこのイベントへの活動参加をお願いいたします。

『芝生を大切に』

いつも当たり前のように見ているスタジアムの芝生。

その芝生についてボランティアとして何かできないものか。

子どものころ、芝生を植えて育てたことがあります。

木箱に土と肥料を入れて、家のベランダで育てました。芝生の色、つや、成長の過程、そしてにおい。毎日、芝生を観察するのが楽しかったです。

日本ではその昔「夏は緑。冬は黄色」それが芝生の常識でした。ところが、テレビで見る欧州リーグのスタジアムは、夏も冬もいつでも緑あざやか。じゅうたんのようにはきれいではありませんか!! 「なぜだ。どうして日本の芝生は冬になると黄色に枯れて汚いんだろう？」と、子どもの私は不思議に思っていました。納得がいかなかった私は『サカタのたね』へ行って冬でも枯れない輸入ものの芝生の種を購入。自宅で芝生を育ててみることにしたのです。

少し前、『サッカー批評6号』（株式会社・双葉社発行）の河崎三行氏の『トヨタカップ'96 外伝』を読んで、あのころの芝生に対する思いがよみがえってきました。日本と欧州では芝生の種類が違うだけではなく、植え方や育て方にも違いがあるのだということにあらためて認識しました。

また、日本のサッカーシーンを陰で支えている人々の存在を知ることができました。さて、横国スタジアムの芝生はどんな人たちによって手入れされているのでしょうか？ 横国ボラとしてとても興味があります。

記事では、スタジアムの芝生を育て管理する方々の苦労と努力がにじみ出ていて、ナルホドと感じたのですが、ただ、私自身の体験だけで言わせていただくと、芝生なんて育てるのはカンタンです（プロの方、偉そうにすみません）。

ド素人でも趣味として芝生を植えて育てられる。そうやって芝生を愛することができたらステキだと思うのです。そして、ボランティアとして何かできないものか。例えば公園や校庭などの緑化推進のために。

みなさん、芝生についてちょっと考えてみませんか。

（U 高木カズ）

プロジェクトV活動スタート!

「人がいっぱいいる競技場ってすごいね」子供たちの感動の声

第1回 I A P Eチームご招待 I A P Eからのお礼状

横浜国際競技場ボランティア・プロジェクトVチームのみなさま、F C・I A P Eの子どもたちをJリーグ観戦に御招待いただき、ありがとうございました。

I A P Eは1993年に設立しました。主として南米から働きに来ている人たちとその子どもたちの生活・教育支援活動をしている団体です。スタッフは日本人と外国人の中高生・大学生・大学院生、社会人です。毎週土曜日に、ブラジルからの子どもたちに対してポルトガル語教室、その他の南米からの子どもたちに対してはスペイン語教室を開講しています。母語教室を中心にした保護者会を開き、ネットワークをつくり、母の日やクリスマス会、キャンプなどいろいろな行事を開催しています。F C・I A P Eは、ポルトガル・スペイン語教室に通っている子どもたちが、おもなメンバーとなっているサッカーチームです。御招待いただいた子どもたちの国籍はアルゼンチン・ペルー・ブラジル・ボリビア・中国・日本です。

ほとんどが日系3世の子どもたちです。父母が日本へ出稼ぎに来ることになり、友人や親戚と突然の別れをして日本にきています。文化の違いにとまどい、日本語もわからず、いつ国へ帰れるのもわからない中で生活してきた子どもたちは、I A P Eの活動の中で元気になってきています。

Jリーグを観戦している子どもたちは、とても楽しそうでした。小机駅から横浜国際競技場の道でも、花を摘んだり四つ葉のクローバーをさがしたり、鬼ごっこをしたり、遠足のような感じでした。プロジェクトVチームのみなさんと子どもたちの交流の場が持てたらと思いました。みなさんのボランティア活動をしっかり、子どもたちに伝えたいと思います。本当にありがとうございました。

I A P E顧問 沼尾 実



第2回 SONチームご招待 SON(スペシャルオリンピックス)神奈川からの感想文

五月晴れ。絶好のサッカー日和の5月10日、横浜国際総合競技場プロジェクトVのご招待によりSON日本・神奈川のアスリート、ファミリーら15人が同競技場での横浜F・マリノスFC東京戦を観戦することができた。3-2。接戦を制したマリノスの勝利にアスリートたちは一喜一憂、笑顔がいっぱいにふくらんだ。

SON神奈川 広報委員長の吉田全宏

- ・中村俊輔が居なくて残念!でもマリノスの選手の様なカッコイイプレイをしたい。(サッカーS君)
- ・「とにかくすごかった!」(マリノスゴールシーンをバスケのボールで仲間に見せていた、バスケT君)
- ・ありがとうございました、また誘って下さい。(水泳H君)
- ・人がいっぱいいる競技場ってスゴイ、そんな所でサッカー出来るマリノスってもっとすごいね!(バスケM君)
- ・お土産までくれるなんて何か、すごいね。(ほぼ全員)

マリノスに懸命に旗を振るアスリートの声援の甲斐あり勝利、笑顔で帰っていくアスリートを見送る私達は勝ち試合に招待出来て良かった!と皆思った。後日各プログラム委員よりうれしい便りが聞けた。(U 島田)

第2回担当者の報告

第2回目は、「SON神奈川」の皆さんを、島田さん、柏村さん、緒方で案内しました。第1回目の反省点で出た「座席の確保の問題」を中心に充分考慮して招待の手順や連絡方法を検討したので、特に問題は無かったと思います。また、SON神奈川の皆さんが予定時間通りに集まってくれたのも、無事に招待できた要因のひとつでした。

待合せ場所のレストラン「こころ」の下には島田さんが待機し、柏村さんと緒方が座席確保の準備でスタンドに待機しました。待ち合わせ場所とスタンド間は、携帯電話で連絡をとることにしておきました。(ただし、携帯電話での連絡で、着信に気づかず、ちょっと連絡がとれずにいた時間もありましたが…)座席は、宮田さんから「招待した人がスタンドへ行ってから座席を取ってください」と念を押されていたので、1階席(E16近く)の最後列に当りだけつけておいてスタンドに到着してから確保することにしておきました。他のお客さんにも柏村さんが対応してご協力いただいたので2列取ることが出来ました。これも観客の皆さんに、理解と協力をいただいたから出来たということを報告しておきたいと思います。(U 緒方)

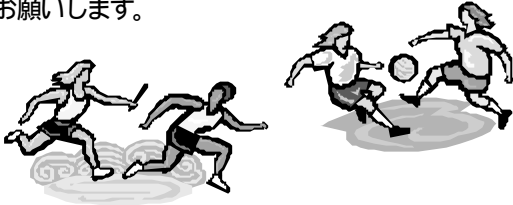


① いんぷおーめーしょん

事務局だより

暑い夏を迎え、今年度の活動も中盤にさしかかってきました。昨年度に比べると、ツアー日数もイベント日数も大幅に増えたため、見学・運営ボランティアの皆様の活動は充実したものになっているのではないのでしょうか？また、まさに競技場運営は、ボランティアの皆さんに日々支えられて、共に歩んできているといえるでしょう。

さて、10月に開催されるスポーツ・レクリエーションフェスティバルでは、自分たちで企画して運営するコーナーも実現に向けて活動を始めています。今後プロジェクトVをはじめ、自主的な活動がさらに活発になってくることが予想されます。これらの自主的な活動は、大勢の方々が参加してさらに大きなうねりになっていくと思われま。活気のある楽しい活動をしていくために、より多くの方々の参加をお願いします。



イベントスケジュール

月	日	イベント名
8月	2日	J1 横浜 vs 神戸
	2-3日	新横浜パフォーマンス
	6日	横浜 vs レッジーナ
	13日	J1 横浜 vs 磐田
	16日	J1 横浜 vs 東京V
	23-24日	SAMPコンサート
	30-31日	サザンオールスターズコンサート
9月	6日	J1 横浜 vs 柏
	20日	J1 横浜 vs 清水
	23日	スーパー陸上2003ヨコハマ
	27日	J1 横浜 vs 大阪
	28日	J2 横浜FC vs F川崎
10月	4日	J1 横浜 vs 市原
	12-13日	スポーツ・レクリエーションフェスティバル
	24-26日	陸上ジュニア五輪
11月	15日	J1 横浜 vs 鹿島
	23日	J2 横浜FC vs 札幌
	29日	J1 横浜 vs 磐田

* 網掛けしてある斜体字の日は、ボランティア活動がありません。

運営ボランティア新規募集のお知らせ～お知り合いの方ご紹介下さい～

横浜国際総合競技場では、現在Jリーグで活動するボランティアの定員156名を確保することが難しい状況を勘案して、新規に運営ボランティアを募集することになりました。つきましては、お知り合いの方をご紹介ください。なお、詳細はホームページに記載してあります。(8月8日アップ予定 <http://www.hamaspo.com/stadium/>)

募集要項及び申請書を希望する方には、**返信用封筒(表に80円切手を貼付し、自分の郵便番号・住所・氏名を記入してください。)**を入れて下記までご請求くださるようにお伝えください。

募集要項・申請書の請求先

〒222-0036 横浜市港北区小机町3300 横浜国際総合競技場ボランティア事務局 宛

+++++ 第5回全国ホームタウンサミットのお知らせ +++++

J1・J2チームのある地域からホームタウンづくりに活躍している団体が参加して情報交換を行う場である全国ホームタウンサミットが今年も開催されます。一昨年よりボランティア交流会が始まり個人参加しています。ご興味のある方は一緒に参加しませんか？今年仙台で9月20日(土)～21日(日)、参加費・旅費等は自己負担です。参加希望・お問い合わせは宮川まで。(連絡先はサッカー部だよりを参照)

編集後記

ボランティアになって5年目。最初の年は2回しか活動要請がなくて不満に感じていたことを懐かしく思い出します。2年目からは編集委員になり、活動日以外の活動を通して充実した日々を過ごしてきました。他チームボランティアの方との交流も個人的に行ったり、サッカー部に入ってボールを蹴ってみたり・・・この年齢(内緒っ)になっても新しい体験ができることはとても貴重で幸せだなと思います。そしてたくさんの方と知り合いになれて助け合いながら活動していくことの大切さを感じる今日この頃です。

編集担当 宮川弘恵

編集・発行 / 〒222-0036 横浜市港北区小机町3300 横浜国際総合競技場内

ボランティア会報誌『ボランチわ』編集部 Tel:045(477)5006 Fax:045(477)5002